

宮城

MIVACI



# 東日本大震災からの復興へ

## —— 被災企業のゼロからのスタート ——

中小機構では、東日本大震災により被害を受けた中小企業等の早期の事業活動の再開のため、自治体と協力して仮設店舗、仮設工場等の施設を整備しています。

### 復興仮設店舗 堺堀

所在地：宮城県東松島市大曲字堺堀13番5（矢本運動公園内）

入居者：津波により被災した、事業再開を希望する東松島商工会の会員企業4店。食料品等の小売業、理容業、飲食店



えんまん亭・遠藤憲之助様

#### えんまん亭（飲食店）

##### 「毎日お客さんとの会話で心が和む」

震災の時は、津波に襲われ車ごと流されました。一時は死を覚悟しましたが、なんとか車外に脱出して妻と一緒に浸水している民家の2階にたどり着き、九死に一生を得ました。息子も私たちもずっと働いてきた身なので、店を再開して働いていること自体が喜びでもあります。ここを基盤にこれから再建できるように努力していきたいと思っています。えんまん亭という名前は、来てくださるお客さまが「えんまんに過ごして欲しい」という思いからつけました。この店に来て笑顔になっていただいて、来て良かったと良い思い出になるような店にしたいと思っています。これからもその思いは、変わることはありません。

#### 三浦鮮魚店（魚介類販売）

##### 「早く店を開きたいという一心で」

早く働き収入を得たいと、早く店を開きたいという一心でした。自宅待機のパート、従業員を早く仕事に復帰させたいという気持ちも強かったです。こうして仮設店舗に出店できましたので、期限である2年間を一生懸命働くしかないと思っています。私たちもそれなりの年齢ですから、今から自力で新たに店舗を構えるというのは難しいです。行政などが主体となってショッピングモールのような建物を造っていただければ...



三浦鮮魚店・三浦正信様



理容おくだ・奥田秀章様

#### 理容おくだ（理容店）

##### 「愛されるお店にすることが再起への第一歩！」

避難所で生活している時、手元に数丁だけ残ったはさみを見た時に、理容業という職業を続けなさいという暗示なのではないかと考えました。新しい店を再建させたいという思いはありますが、理容店は地域あってのお店だと思っていますので、この仮設店舗を避難所や地域の方に愛されるお店にすることが、再起への第一歩だと思っています。店の再開を進めてくれた常連のお客さんや家族のためにも、震災前の店で唯一残った鏡を見る度に頑張らなければと自分を励ましながら仕事しています。

中小機構ホームページに個別企業への詳細な取材内容を掲載しております。

<http://www.smrj.go.jp/>

(取材日：平成23年12月9日)



中小企業と地域振興を  
もっとサポート

中小機構